

長野市SDGs未来都市計画の決定について

◆ 長野市SDGs未来都市計画(素案)市民意見等の募集(パブリックコメント)の結果

実施概要

- ▶【募集期間】 令和3年7月2日(金)から令和3年7月20日(火)まで
- ▶【閲覧窓口】 市ホームページ、本庁(企画課、行政資料コーナー)、各支所、連携市町村
- ▶【意見提出方法】 書面(持参、郵送、FAX)、電子申請及び電子メール

募集結果

意見提出者 9者

意見等件数 23件

対応区分	対応方針	件数
1	素案を修正・追加する。	11
2	素案に盛り込まれており、修正しない。	0
3	素案は修正しないが、今後の取組において検討又は参考とする。	12
4	検討の結果、素案を修正しない。	0
5	その他(状況説明など)	0
合 計		23

◆ 個別のご意見及び市の対応方針等の要旨

No	ページ	意見要旨	市の考え方(案)	対応方針
1	表紙、6	～環境未来都市「ながの」～を見出しとして大きくされてはいかがでしょうか。冒頭から「環境」、「バイオマス資源」をテーマとした計画であることを明示し、さらに「バイオマス資源に軸足を置く計画」であり、その実現により様々な課題解決が可能になる、ということを知りやすくする必要がありますと考えました。	「環境共生都市ながの」の表示について、 概要版などで分かりやすく表示 します。本編6ページの目指す将来像の説明については、「 広域連携、分野連携の視点から以下の目標を定め、バイオマス資源の活用を軸とした取組みを先導に、SDGs17ゴールの達成に向け展開していく。 」に修正します。	1 素案を修正・追加する。
2	6	水資源を豊富に持つ信州だからこそ、「水の品質」に関しても高い目標を掲げて頂きたい。水道の水質基準を高く設定し、官民一体で良質の水を供給、将来にわたり継続し改善していく目標とする。	本編6ページの「目標2 豊かな自然環境の保全と持続可能な活用」の説明について、「 雨水を蓄え良質な水を生み出す 」に修正します。その他ご意見については、今後の取組の参考とさせていただきます。	1 素案を修正・追加する。
3	6	全体的な印象として、バイオマスのみ強調しているが、もう少しSDGsの範囲を幅広く捉えて、民間活力を取り込むようにした方が、全体の活動が進んで良いものとする。	本編6ページの目指す将来像の説明について、「 広域連携、分野連携の視点から以下の目標を定め、バイオマス資源の活用を軸とした取組みを先導に、SDGs17ゴールの達成に向け展開していく。 」に修正します。	1 素案を修正・追加する。
4	6、12、42、50	・食品廃棄物のリサイクル ・廃培地の肥料化 ・同 計画 以上について、国が進める「緑の食糧システム戦略」との関連性を記述表現する必要がありますと思う。	「みどりの食料システム戦略」など関連する国や県の施策と整合していきます。27ページの「地方創生・地域活性化への貢献」の説明に、「 国や県の施策とも整合させながら、地域のDXや産業おこしにつなげ、 」を追加します。	1 素案を修正・追加する。

No	ページ	意見要旨	市の考え方	対応方針	
5	16	再生可能エネルギーを活用した新しい地域交通の導入も検討されたい。EVを利用したMaasシステムなどは産業を支えていく必須の仕組みであるので、重要な柱に位置づけてもらいたい。	本編16ページの「電気自動車(EV)活用PR・普及促進」の説明に、「 その他公共交通への導入などEVの普及促進の方策を検討する。 」を追加します。	1	素案を修正・追加する。
6	17	「生物多様性の保全」について、なんらかの言及が必要だと考える。市の魅力の一つは「戸隠」「飯綱」など国立公園にも指定されている多様で重層的な自然環境と生物多様性にある。国立公園の環境を生かした教育、自然保育、「探究的学び」のフィールドづくり、働き方改革と結びついたワーケーションの推進など、もれなく計画に位置づけることが適当と思われる。	本編17ページの「森林の総合利用の推進」の説明に、「 豊かな自然環境に親しみながら、生物多様性の保全など環境教育や探求的学び、国立公園等を活用したワーケーションなど総合的な利用を図る。 」を追加します。	1	素案を修正・追加する。
7	21	防災関係の対策計画への反映が書かれていない。防災対策は、「13:気候変動」に係わる大切な事項であるため、計画への反映が必要である。	本編21ページに「 長野市災害復興計画 」の記載を追加します。	1	素案を修正・追加する。
8	21~25、47、48	「ステークホルダーとの連携」が計画の実行上、どのように位置付けられるのかが分かりにくいように感じた。市民、団体、機関との連携はSDGs未来都市の実現には重要であり、「(ステークホルダーとの連携のための)プラットフォームの設置」を設けてはどうか。対話の場、連携の場であるプラットフォームの存在が重要に思いました。	本計画の推進に当たり、ステークホルダーなど関係者で構成する SDGs推進協議会(有識者会議) を設置し、 対話・連携のプラットフォーム としていきます。 NAGANOスマートシティコミッション では、具体的な 事業構築の際に、SDGs視点での連携を推進 します。 本編21、23、25、47、48ページで説明の追記及び体制図の修正を行います。	1	素案を修正・追加する。

No	ページ	意見要旨	市の考え方	対応方針	
9	40	計画(素案)では、「3. すべての人に健康と福祉を」(健康長寿社会の形成)が抜け落ちている。スマートハウス実現の中に、住宅環境の改善と健康長寿社会の項目を入れておくべき。あるいは、<市民・NPO等の活動>の中に、地域活性化と健康長寿社会を入れるのも良い。	本編40ページのスマートハウス化応援隊事業の説明に、「 スマートハウス化の取組を進め、再生可能エネルギーの導入促進、住環境の改善による健康長寿の暮らしの実現につなげていく。 」を追加します。	1	素案を修正・追加する。
10	48	2030年の間にもさまざまなイノベーションやニーズが生まれてくる可能性もあり、新たな課題を次のステップへとつなげるという視点が必要であるため、最後に、「将来へのステップアップ」という項を設けてはいかがでしょうか？本計画の事業が目標を達したとしても、事業スキームとなる組織体制はそこで解散せずに、将来へのステップアップが可能な状態にしておく必要があります。	本編48ページの「将来的な自走に向けた取組」の説明に、「 本計画3か年の最終年度には、取組状況、成果等を検証し、2030年のゴールに向けて必要となる取組、推進体制などについてあらかじめ検討し、本計画の継続性と実効性を高める。 」を追加します。	1	素案を修正・追加する。
11	全体、11	指標のKPIについて現在値より増加でなく2030年に有るべき姿を考えバックカastingで2023年の指標を作った経緯を記入した方がより分かりやすいのでは。	KPIについては、既存の市の個別計画の指標と整合させており、一部指標については、今年度中に次期計画策定に合わせて設定される予定です。「 未利用バイオマス利用率 」及び「 森林体験年間参加者数 」については、具体的な数値設定となるよう修正します。	1	素案を修正・追加する。

No	ページ	意見要旨	市の考え方	対応方針
12	7	計画(素案)概要版8ページ(4)令和元年東日本台風の被害から学んだこととして、連携強化と人づくりの推進となっていますが具体的に上げた方がよいのでは。	SDGs講演会や学習会、講習会などを活用し、台風災害の背景にある気候変動やカーボンニュートラルなどを考える機会をつくりたいと考えています。	3 素案は修正しないが、今後の取組において検討又は参考とする。
13	24	今までの長野市の経済活性化の政策から見ると、地元の民間有力企業からの後押しが足りないと感じる。長野商工会議所を始めに、民間企業、小売業・建設業などの参入、農林水産業関係のJA長野の参加など、積極的に民間活力を取り入れる方が良く考える。	SDGsの推進に当たり、企業をはじめ様々な関係者の参画、民間活力の導入が図れる仕組みを構築したいと考えております。	3 素案は修正しないが、今後の取組において検討又は参考とする。
14	24	小中高生のSDGsの取り組み、子供のチカラを大いに使いましょう。有識者会議やスマートシティNAGANO推進協議会にも小中高生がでるべきであると考えます。	ご提案のアイデアを含め、体験プログラムやイベントなど様々な機会を通じて、大学生、小中高生がSDGsに触れる場、活動の場を検討していきたいと考えています。	3 素案は修正しないが、今後の取組において検討又は参考とする。
15	24	売電収益を地域づくりの直接財源として中山間地の自治活動の維持に活用する。林業や再生可能エネルギー事業をおこなう主体となり得る住民自治協議会を、ローカルSDGsの達成を目論む「地域経営体」へと育成を図っていくことを計画に盛り込めないだろうか。	木質バイオマス利用や森林整備について、市内で先進的に取組む地区では、住民自治協議会も中心的な主体として活動しています。過疎化、高齢化が進む中山間地域でいかに持続可能な仕組みを構築していくか、ご意見を今後の取組の参考とさせていただきます。	3 素案は修正しないが、今後の取組において検討又は参考とする。

No	ページ	意見要旨	市の考え方	対応方針
16	34	バイオマスの有効活用について「亜臨界水技術」を活用し、用途開発の範囲を広げたら如何でしょうか。	「バイオマス・脱炭素関連分野の調査・研究」の取組の中で、大学など高等教育機関の研究成果や地域企業の技術力などを融合させ、新たなビジネスや新産業の創出について検討していきます。	3 素案は修正しないが、今後の取組において検討又は参考とする。
17	36	小中学校・高校などの理解のレベルと状況に応じて、正規の授業プログラムの中で、SDGsの取り組みを学ぶことができるように、大学や専門家の意見を聞きながら、授業の計画を練る。	大学など高等教育機関とも連携して、SDGs環境・森林教育プログラムの検討を進めます。	3 素案は修正しないが、今後の取組において検討又は参考とする。
18	36	学校のカリキュラムに環境教育を取り入れ、長野市すべての子どもが学習・体験できる仕組みを構築していただきたい。その際、学校の先生が教えるのではなく本事業のステークホルダーの事業見学や出張授業などで生きた学びを子どもたちに届ける。現場と一体となった独自の環境教育をプログラム化してはどうか。	ご提案のアイデアを含め、本編36ページの「SDGs環境・森林教育プログラム」の中で、地域の環境を生かした長野らしい学習・体験プログラムや環境教育について検討していきます。	3 素案は修正しないが、今後の取組において検討又は参考とする。
19	39	ボランティア的に、直接、森林に入って活動する企業だけではなく、関連する企業すべて、JA長野などとも、協定を結ぶべきである。	企業等との連携については、具体的な取組が進み、連携を深化させるために必要な場合には、アドバイスパートナー協定等の締結について検討いたします。	3 素案は修正しないが、今後の取組において検討又は参考とする。

No	ページ	意見要旨	市の考え方	対応方針	
20	39	鬼無里の薪生産の大口消費事業者である「鬼無里の湯」での消費はなくてはならない。鬼無里の湯において、薪需要を活性化するために、薪利用を積極的にPRするとか、ワーケーションの様な利用を促すなど、薪利用を絶対条件にした経営ができる事業者を選定しなければならない。	本編39ページの「地元NPOによる薪活プロジェクト」推進に当たり、地域内循環の仕組みなど顕在化した課題については、より良い解決策を関係者一体で考えていきます。	3	素案は修正しないが、今後の取組において検討又は参考とする。
21	40	民間の建設業者・ハウスメーカーとの協力やコラボレーションなども含めて、民間への門戸の範囲を幅広くして、産業の活性化を図るとともに、SDGsの実現に努めるべきである。	SDGsの取組については、産学官連携による産業づくりの視点も重視しております。	3	素案は修正しないが、今後の取組において検討又は参考とする。
22	全体	SDGs未来都市として17のゴールすべてについて網羅することが重要。その中で、課題①～⑤、目標①～⑤を重点的に行うとすべきと思います。	本計画は、まずは先導的な取組から着手する2021年からの3か年計画とし、特に該当するゴールを記載しております。具体的な事業構築に当たっては、他の様々なゴールにも効果が及ぶように取組を考えることで、SDGs全体の達成に展開していきたいと考えております。	3	素案は修正しないが、今後の取組において検討又は参考とする。
23	全体	森林資源の活用や「林業」の可能性に着目したことは一定の評価ができる。一方で、未利用資源を使った産業創出に少々偏った計画になっている。環境共生都市を目指すなら、SDGsウエディングモデルが示すように、環境の保全こそが大事であることを強調してほしい。	自然の恵みや働きが、あらゆる経済活動を行ううえで不可欠な要素であるという認識のもと、すべての取組に環境保全の視点を持ちながら、環境と経済が両立する持続可能な地域づくりを目指していきます。	3	素案は修正しないが、今後の取組において検討又は参考とする。

No	ページ	意見要旨	市の考え方	対応方針
1	11	「未利用バイオマス利用率」については、適切な推定方法があれば明示したうえで推定値を用いても良いのではないかと。または観測可能な量に代替しても良いと思料する。	2025年の推定値を設定します。	素案を修正・追加する。
2	11	「未利用バイオマス利用率」については、計測可能な2025年で設定しても問題ありません。	2025年の推定値を設定します。	素案を修正・追加する。
3	17、46	「林業体験年間参加者数」について、定量的な目標値があれば設定してください。	目標値を設定します。	素案を修正・追加する。
4	33等	林業の活性化、木材供給については具体的な検討が進んでいる一方で、需要側の利用拡大、エネルギーネットワーク等の検討は研究にとどまっており、地方創生としてバランスのとれた循環共生の取組の検討が必要と思料する。	本編16ページ「ゼロカーボンマスタープラン策定」、同33ページ「木材の需要創出・利用拡大の検討」の中で、ご指摘を踏まえた具体的な検討を進めます。	素案は修正しないが、今後の取組において検討又は参考とする。
5	37	地域エネルギー事業や木質建設地区の創出など、モデル的な木質都市の検討は難しいでしょうか。	本編16ページ「ゼロカーボンマスタープラン策定」、同33ページ「木材の需要創出・利用拡大の検討」、同37ページ「SDGs推進のための調査・研究事業」に関連付け、ご指摘の点について関係者と意見交換等を行います。	素案は修正しないが、今後の取組において検討又は参考とする。
6	35	「社会面の取組」に掲げている事業の進捗を図るためのKPIとして適切かどうかご検討ください。	社会面の取組については、学習会、体験・教育プログラム、情報発信、共同研究など、圏域を意識して行うことが効果的な取組を掲げているため、圏域での連携事業数、SDGs市民認知度をKPIとして設定しました。	その他(状況説明など)
7	44	「バイオマス発電量」のKPIについて、本編11ページの2030年の目標を達成するためには、「現状値より増加」する必要があると思料します。	検討中のバイオマス発電設備について、2023年時点では建設中のためKPIは「現状値を維持」としています。その後は2030年の目標発電量に向けて取組を進めます。	その他(状況説明など)
8	全体	全体として事業内容を詳細に記述されており、熟度の高い計画である点が評価できる。	計画に基づき具体的な取組を進めていきます。	その他(状況説明など)



計画期間
2021—2023

長野市SDGs未来都市計画

～環境共生都市「ながの」の実現～

概要版



長野市 × 信州大学
長野市耕作放棄地帯における
ソルガム活用調査研究事業
信州ソルガムで
地域を元気に健康に！



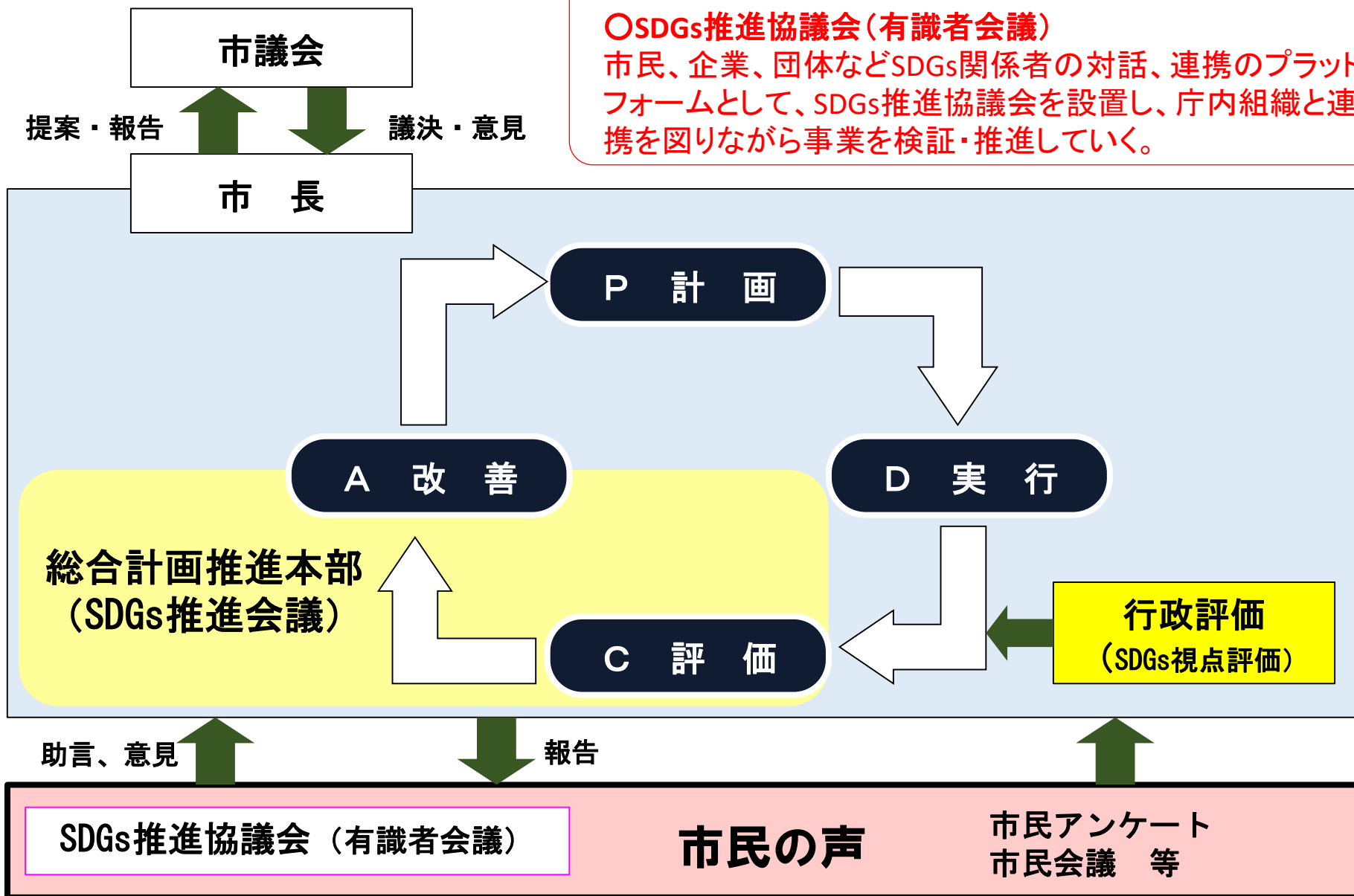
2021年7月
長野市



記載追加

○SDGs推進協議会(有識者会議)

市民、企業、団体などSDGs関係者の対話、連携のプラットフォームとして、SDGs推進協議会を設置し、庁内組織と連携を図りながら事業を検証・推進していく。



市議会
市長

提案・報告
議決・意見

P 計画

D 実行

A 改善

C 評価

行政評価
(SDGs視点評価)

総合計画推進本部
(SDGs推進会議)

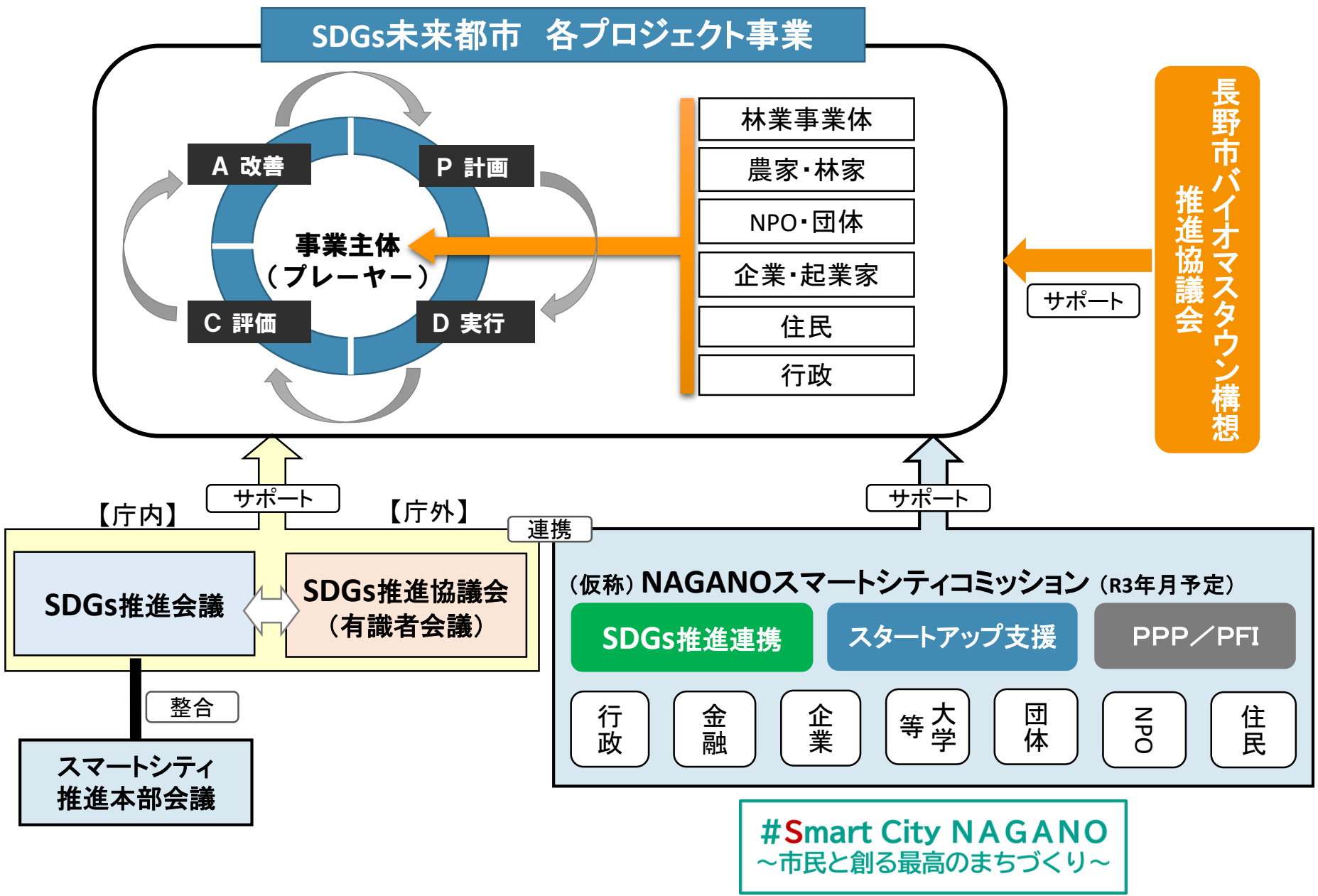
助言、意見

報告

SDGs推進協議会 (有識者会議)

市民の声

市民アンケート
市民会議 等




みどりの食料システム戦略（概要）


～食料・農林水産業の生産力向上と持続性の両立をイノベーションで実現～
Measures for achievement of Decarbonization and Resilience with Innovation (MeaDRI)

令和3年5月
農林水産省

現状と今後の課題

- 生産者の減少・高齢化、地域コミュニティの衰退
- 温暖化、大規模自然災害
- コロナを契機としたサプライチェーン混乱、内食拡大
- SDGsや環境への対応強化
- 国際ルールメイキングへの参画

 「Farm to Fork戦略」(20.5)
2030年までに化学農薬の使用及びリスクを50%減、有機農業を25%に拡大

 「農業イノベーションアジェンダ」(20.2)
2050年までに農業生産量40%増加と環境フットプリント半減

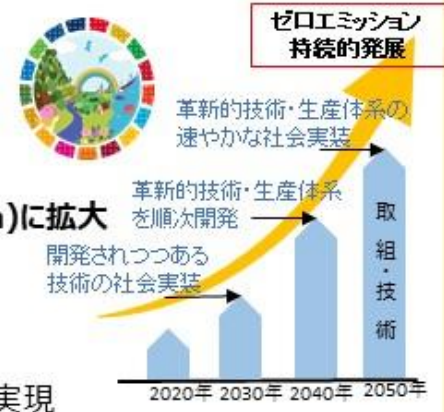
**農林水産業や地域の将来も
見据えた持続可能な
食料システムの構築が急務**

持続可能な食料システムの構築に向け、「みどりの食料システム戦略」を策定し、中長期的な観点から、調達、生産、加工・流通、消費の各段階の取組とカーボンニュートラル等の環境負荷軽減のイノベーションを推進

目指す姿と取組方向

2050年までに目指す姿


- 農林水産業のCO2ゼロエミッション化の実現
- 低リスク農薬への転換、総合的な病害虫管理体系の確立・普及に加え、ネオニコチノイド系を含む従来の殺虫剤に代わる新規農薬等の開発により化学農薬の使用量（リスク換算）を50%低減
- 輸入原料や化石燃料を原料とした化学肥料の使用量を30%低減
- 耕地面積に占める有機農業の取組面積の割合を25%(100万ha)に拡大
- 2030年までに食品製造業の労働生産性を最低3割向上
- 2030年までに食品企業における持続可能性に配慮した輸入原材料調達の実現を目指す
- エリートツリー等を林業用苗木の9割以上に拡大
- ニホンウナギ、クロマグロ等の養殖において人工種苗比率100%を実現





戦略的な取組方向

2040年までに革新的な技術・生産体系を順次開発（技術開発目標）
2050年までに革新的な技術・生産体系の開発を踏まえ、今後、「政策手法のグリーン化」を推進し、その社会実装を実現（社会実装目標）
※政策手法のグリーン化：2030年までに施策の支援対象を持続可能な食料・農林水産業を行う者に集中。
2040年までに技術開発の状況を踏まえつつ、補助事業についてカーボンニュートラルに対応することを目指す。
補助金拡充、環境負荷軽減メニューの充実とセットでクロスコンプライアンス要件を充実。
※革新的技術・生産体系の社会実装や、持続可能な取組を後押しする観点から、その時点において必要な規制を見直し、地産地消型エネルギーシステムの構築に向けて必要な規制を見直し。

期待される効果

経済 持続的な産業基盤の構築

 ・輸入から国内生産への転換（肥料・飼料・原料調達）
 ・国産品の評価向上による輸出拡大
 ・新技術を活かした多様な働き方、生産者のすそ野の拡大

**社会 国民の豊かな食生活
地域の雇用・所得増大**

 ・生産者・消費者が連携した健康的な日本型食生活
 ・地域資源を活かした地域経済循環
 ・多様な人々が共生する地域社会

**環境 将来にわたり安心して
暮らせる地球環境の継承**

 ・環境と調和した食料・農林水産業
 ・化石燃料からの切替によるカーボンニュートラルへの貢献
 ・化学農薬・化学肥料の抑制によるコスト低減

アジアモンスーン地域の持続的な食料システムのモデルとして打ち出し、国際ルールメイキングに参画（国連食料システムサミット（2021年9月）など）

【参考2】農水省資料

みどりの食料システム（具体的な取組）

～食料・農林水産業の生産力向上と持続性の両立をイノベーションで実現～

調達

1. 資材・エネルギー調達における脱輸入・脱炭素化・環境負荷軽減の推進

- (1) 持続可能な資材やエネルギーの調達
- (2) 地域・未利用資源の一層の活用に向けた取組
- (3) 資源のリユース・リサイクルに向けた体制構築・技術開発

～期待される取組・技術～

- ▶ 地産地消型エネルギーシステムの構築
- ▶ 改質リグニン等を活用した高機能材料の開発
- ▶ 食品残渣・汚泥等からの肥料成分の回収・活用
- ▶ 新たなタンパク資源（昆虫等）の利活用拡大等

生産

2. イノベーション等による持続的生産体制の構築

- (1) 高い生産性と両立する持続的生産体系への転換
- (2) 機械の電化・水素化等、資材のグリーン化
- (3) 地球にやさしいスーパー品種等の開発・普及
- (4) 農地・森林・海洋への炭素の長期・大量貯蔵
- (5) 労働安全性・労働生産性の向上と生産者のすそ野の拡大
- (6) 水産資源の適切な管理

～期待される取組・技術～

- ▶ スマート技術によるピンポイント農薬散布、次世代総合的病害虫管理、土壌・生育データに基づく施肥管理
- ▶ 農林業機械・漁船の電化等、脱プラ生産資材の開発
- ▶ バイオ炭の農地投入技術
- ▶ エリートツリー等の開発・普及、人工林資源の循環利用の確立
- ▶ 海藻類によるCO₂固定化（ブルーカーボン）の推進等

- ✓ 雇用の増大
- ✓ 地域所得の向上
- ✓ 豊かな食生活の実現

消費

4. 環境にやさしい持続可能な消費の拡大や食育の推進

- (1) 食品ロスの削減など持続可能な消費の拡大
- (2) 消費者と生産者の交流を通じた相互理解の促進
- (3) 栄養バランスに優れた日本型食生活の総合的推進
- (4) 建築の木造化、暮らしの木質化の推進
- (5) 持続可能な水産物の消費拡大

～期待される取組・技術～

- ▶ 外見重視の見直し等、持続性を重視した消費の拡大
- ▶ 国産品に対する評価向上を通じた輸出拡大
- ▶ 健康寿命の延伸に向けた食品開発・食生活の推進等

加工・流通

3. ムリ・ムダのない持続可能な加工・流通システムの確立

- (1) 持続可能な輸入食料・輸入原材料への切替えや環境活動の促進
- (2) データ・AIの活用等による加工・流通の合理化・適正化
- (3) 長期保存、長期輸送に対応した包装資材の開発
- (4) 脱炭素化、健康・環境に配慮した食品産業の競争力強化

～期待される取組・技術～

- ▶ 電子タグ（RFID）等の技術を活用した商品・物流情報のデータ連携
- ▶ 需給予測システム、マッチングによる食品ロス削減
- ▶ 非接触で人手不足にも対応した自動配送陳列等